

記念館だより

2021年2月号

「どんなときでも」

加藤 輝勢子

「1月行く、2月逃げる、3月去る」と言われますが、コロナコロナと言っている間に2月になってしまいました。今年度も2ヶ月しかありません。この間、何とか歩んできましたが、振り返ると何をしていたのだろうと自問自答してしまいます。必死で歩んできたつもりですが、あれもしていない、これもしていない、していないことを数えると気がめってきます。できたことを数えていこうと言い聞かせてはいますが…。でも、この間、何とかみんなと共に歩めたことは感謝しかありません。

「どんなときでも」

どんなときでも どんなときでも
苦しみに負けず、くじけてはならない。
イエスさまの、イエスさまの
愛を信じて。

どんなときでも どんなときでも
幸せをのぞむ、くじけてはならない。
イエスさまの、イエスさまの
愛をあるから。

上記の詩は讃美歌になりました。作詞したのは高橋順子(1959-1967)さんです。幼い頃に骨肉腫を発病され、闘病中にこの詞を書かれたそうです。小さい時から教会学校に通っ

ていて、自分がつらい時などに励ましていたようです。私もこの讃美歌を時々口ずさみます。

今年度はコロナに明け暮れ、緊急事態宣言も出て、思うような活動ができないことが多く、やり場のない思いでいっぱいでした。そんな時、子どもたちの元気に救われたことがいっぱいあります。いつもと変わらず、屋上で元気いっぱい遊んでいて、いつの間にか半そでになって汗をかいている姿を見ると「すごいな。」と感心します。私は年を重ね、この季節の寒さのせいもありますが、そんなに開放的に体を使って遊んでいないと思います。

世の中が困難な時、大変な時にそこから回復する力、子どもたちの持っている力、パワーはとても強いと思います。そんな中で、無心に集中して遊ぶ姿は大人たちの励みになり、生きる力になります。

記念館学童クラブの子どもたちはまさにそのような存在でした。大変な時、こちらがお世話しているようで、元気をもらうことが多々ありました。後2か月で今年度が終わりますが、子どもたちと楽しい思い出をいっぱい作り、学童クラブが子どもたちの故郷になればと思います。



学童クラブ

年が明けて間もなく、二度目の緊急事態宣言が発令されるような情勢となりました。気を張り詰めてしまいがちで、不安な状況の中でも学童クラブでは、特に幼かった1年生たちの成長がはっきり見て取れるようになりました。

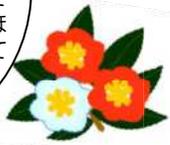
なかなか自分から遊びの輪に入っていけなかった子どもが面白そうな遊びを見つけて、「入れて！」と自分から声をかけられるようになりました。また、「工作机に置いてあったよ！」と忘れたままだったお友だちのハンカチを渡してあげる子どももいます。受け取る子どもの口からも「ありがとう！」が自然と出てくるようになりました。

どんな時も、日常のうれしい変化を見逃さず、今年も着実に歩んでいきたいと思います。(吉田)

みんなで積み上げたカブラ・タワー！時間を忘れて熱中していました。背の高い上級生の力を借りて、もっと上へと挑戦を続けます！



1年生にも大人気のサッカー！寒い日でも、いつの間にか上着を脱いで半袖になっているほど本気で走り回っていました。



記念館トピック

【賀川研究会】

『四十年の恵み～本所基督教産業青年会・日本基督教団東駒形教会四十年史』を読み進めています。

2/18(木) 19:00～

本所賀川記念館3F ホール

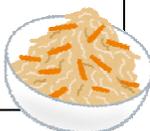
※ 新型コロナウイルスの拡大状況によっては延期となる場合があります。



コスモス会

『わが家の定番メニュー』

〈豚汁・焼き鮭・大豆入り切干大根煮物・青菜のお浸し・白ごはん〉なんとも変わり映えない陳腐なメニューです。でも豚汁には豚肉、大根、人参、ごぼう、里芋、ねぎ、こんにゃく、油揚げ等々、多様な具材が入りながらも、簡易な調理法は毎回肩の力を抜いて準備できるし、切干大根は「あと一品！」のお助けマン(いつでも待機してくれている救急隊)。こんなすぐれたものを庶民の食卓に残してくれた日本の食文化に脱帽！



美術教室

第2～4週水曜日 15:00～17:00

講師：亀田谷亜礼先生

(今年度は新規入会を休止しています)



ピアノ教室

毎週月曜日

講師：土屋 紘枝先生

